



	<p>ア S G H部員、高大連携事業に参加した生徒、本校教員が様々な場面で行う人的普及  イ 成果報告書、ホームページ、S G H成果発表会による普及  ウ 学校設定科目を実施する際に開発する独自教材といった成果物による普及</p> <p><b>(1) 課題研究内容</b>  課題研究テーマを「共生社会と教育」「歴史と文化」「経済発展と環境」「国際政治・外交」「日本の貢献・国際協力」の5分野に設定し、以下の内容でグローバルな社会問題やビジネスに対する関心を高め、問題を発見・解決する探究的な学習を通して、日本の未来を創造的に描くことのできるグローバル・リーダーの育成をめざす。  【内容】「学校設定科目」「S G H海外学習」「S G H発展学習」「S Gカルチャー」「S G H特別講演会」</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b>  【実施方法】  課題研究は大学・企業等の専門家からの講義や外部講師等による個別指導、校外学習・海外研修等を通して実施する。その成果はまとめて発表し、国内外に発信する。  ・学校設定科目「S Gアジア探究」「S G国際探究」「S Gグローバル社会探究」「S S&amp;S G L T C」「S S&amp;S G E S P I、II」  ・「S G H海外学習」 英国及びドイツの姉妹校との連携（「日英独高校生の国際シンポジウム」の開催、「海外研修」における課題研究成果の発表、「事前研修」）、英国及びドイツの大学、国際関係機関や企業等との連携（「海外研修」でのフィールドワーク・ワークショップや大学教員等によるレクチャー等）  ・「S G H発展学習」 国内の大学、企業、国際関連機関との連携（大学教員等による発展的講義、大学教員・企業人等の指導のもとでの探究活動、ワークショップやインターシップ等）、大学の留学生等とのグローバルな課題についてのディスカッション、各種コンクールへの積極的な参加  ・「S Gカルチャー」 大学、企業等の専門家や外部講師による講義や指導・助言を受け、フィールドワークを行うことで、興味・関心を喚起させ、探究的な学習を深める。  ・「S G H特別講演会」 大学・企業等の専門家を招き、探究的な学習に対する意欲を喚起させ、グローバルな問題やビジネスについての理解を深める。  【検証評価】  ・ 考査問題、課題レポートやプレゼンテーション資料の内容、プレゼンテーション、アンケート調査、ループリック等に基づく生徒の変容、教員の変容を分析して行う。  ・ S G H運営指導委員会の評価等</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>  「総合的な学習の時間」2単位－「S S&amp;S G L T C」2単位中1単位、「情報の科学」2単位中1単位を充当する。特例ではないが、「英語表現I」2単位－「S S&amp;S G E S P I」2単位、「英語表現II」4単位－「S S&amp;S G E S P II」4単位（第2学年2単位、第3学年2単位）を充当する。特例はないが、「現代社会」（2単位）を代替措置として1年生全員を対象に「S Gアジア探究」（2単位）を充当する。国際分野の内容を大学等外部機関と連携した探究活動により、生徒の論理的思考力や問題解決力を向上させることを目標とする。</p> <p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>  【研究開発の内容】  ・ 学校設定科目「S G日本文化探究I、II」で実施。  【実施方法】教材開発、指導法の工夫、大学等との連携、教科を超えた教員の連携  【検証評価】  ・ 考査問題、課題レポート、アンケート調査、ループリック等から生徒、教員の変容を分析して行う。  ・ S G H運営評議員会の評価等</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>  「国語総合」2単位－「S G日本文化探究I」5単位中4単位を充当する。</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b>  ・ オーストラリアの大学や高校との連携（グローバル問題についてeメールで情報交換、テレビ会議を実施してグローバル問題について発表・ディスカッションを実施）  ・ 「英語部」を「S G H外国語部」に改編、「S G H歴史部」の設置  ・ ボランティア活動への積極的参加  ・ 文系を「グローバルコース」、理系を「サイエンスコース」に改編</p> <p><b>⑨その他特記事項</b>  「情報の科学」2単位－「S S&amp;S G L T C」1単位、「S S総合数学」1単位を充当する。</p>
⑧-2 課題研究	
⑧-3 上記以外	
⑨その他特記事項	

ふりがな	あいちけんりつじしゅうかんこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	愛知県立時習館高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:		30人	36人	人	人	人	88人
目標設定の考え方: 自主的に地域社会や国際社会に貢献する活動に取り組む生徒数を、少なくとも全校生徒の30%を目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	24人
	SGH対象生徒以外:		22人	22人	人	人	人	16人
目標設定の考え方: SSH(10)、SGH(20)、その他の海外研修をあわせて40人以上を目標とする。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		5%	5%	%	%	%	70%
目標設定の考え方: 明確な職業観を身につけ、国際的な舞台で活躍しようとする生徒の割合を、全校生徒の70%を目標とする。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 様々なコンテスト等に積極的な参加を促し、被表彰者・入賞者数15名を目標とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		8.7%	15.9%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 英語授業の一層の改善や英語による成果発表会を通して、「論理的思考力」「コミュニケーション能力」を育み、該当レベルの生徒の割合の増加を目標とする。								
(その他本構想における取組の達成目標) SGHに関する部活動の部員を増やす。								
f	SGH対象生徒:							45人
	SGH対象生徒以外:			0人				5人
目標設定の考え方: 50人以上を目標とする。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		30%	34%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: SGHの成果として、グローバル社会で活躍したいと考え、スーパーグローバル大学に進学することを目標とする。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: SGHの成果として、グローバル社会で活躍したいと考える生徒の増加を目標とする。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	5%
目標設定の考え方: SGHでの課題研究の充実に努め、該当する生徒の割合の増加を目標とする。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	20人
目標設定の考え方: SGHの成果として、グローバルコース生徒の25%、サイエンスコース生徒の10%を目標とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	25人
目標設定の考え方： 海外研修に積極的に参加する生徒数の増加を目標とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	80人	80人	人	人	人	人	人	440人
目標設定の考え方： 大学等での校外研修や課題研究の成果発表会への参加は、SGH対象生徒(1年生・2年グローバルコース)全員を目標とする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方： 英国・ドイツの姉妹校3校、英国・ドイツの連携大学・国際機関7箇所の計10箇所を目標とする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	0人	人	人	人	人	人	30人
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方： グローバル社会で活躍する外部人材の参画を通して、生徒の動機づけと課題研究の充実を図ることを目標とする。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方： 大会、コンテスト等に積極的に参加する生徒の増加を目標とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	12人	11人	人	人	人	人	人	18人
目標設定の考え方： 英国・ドイツの姉妹校からの短期留学生と帰国生徒の人数の増加を目標とする。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	3回
目標設定の考え方： 授業公開、成果発表会、地域フォーラムの開催を目標とする。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている	△一部整備されている	×整備されていない					○
目標設定の考え方： 継続的に整備を行い、SGH事業の情報発信を目標とする。								
(その他本構想における取組の具体的な指標) 評価方法としてルーブリック等のパフォーマンス評価の研究・確立状況								
j	○研究され、確立している	△研究中	×研究されていない					○
目標設定の考え方： 生徒に主体的な学習意欲や自己研鑽意識の向上を促すパフォーマンス評価方法の研究・確立状況を目標とする。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	957	955	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							